

# 令和7年度新宿区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名：西新宿子ども園施設所在地：新宿区新宿4丁目35番5号



## 1-1 活動テーマ

『自ら探究する子どもを育てる』

～自然を通して五感をくすぐる環境づくり～

## 1-2 テーマ設定理由

自然環境を活用し、五感を通じた体験を基盤として、子どもの気づきや疑問を出発点に遊びや生活の中で試行錯誤を重ねながら主体的な探究活動へとつなげる保育を実践した。

## 2-1 活動スケジュール

- ・自然に触れながら、四季を通して年3回子どもたちがささき隊長と自然探究を行った。
- ・子どもたちの探究心が育まれるように自然と触れ合う場として保育室前に『西新宿ラボ』を設置する。

## 3-1 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちの関心が広がるように、園庭に土と枯葉で作ったダンゴムシの家や自由に詰める雑草花壇等の素材を用意した。

探究心の深まりとともに、観察ケースや幼児用顕微鏡などを設定し、生き物を深く観察できるようにした。更に餌やり用のスポイトなど用意し、飼育活動を通して親しめるようにした。

子どもの気づきやつぶやき、遊びの過程や変化について、日々記録を行った。具体的には写真やメモ、ドキュメンテーション等を活用し、子どもの姿を可視化するとともに振り返りや次の保育につなげた。



## 4-1 探究活動の実践 活動の内容

- ・ささき隊長によるプロの自然解説を聞くことによって、子どもたちは自然への興味関心が広がっていった。そして身近にある自然の変化や発見に子どもたちが『なぜだろう』『もっと知りたい』と探究心が深まっていった。
- ・子どもたちの探究心を更に深めたい思いから『西新宿ラボ』を子どもたちの探究心を支える場として設置し、子どもたち、保育者、保護者の共通理解の場とした。



## 4-2 活動中の子ども声、子ども同士や保育者との関わり

子どものつぶやきや遊びの過程を記録した写真やメモをもとに職員間で振り返りを行った。振り返りでは子どもの気づきや関わりの変化に着目し、『どのような環境や援助が有効であったか』を話し合い、次の保育に活かした。

主体的な活動を促すために子どもが自ら試行錯誤出来る環境構成を行うとともに保育者は子どもの気づきや興味に寄り添いながら、関わることを大切にした。答えを与えるのではなく「どうなるかな」「やってみよう」といった言葉かけを通して、子ども自身が考え、試みる過程を支えた。

## 5-1 振り返り 振り返りによって得た先生の気づき

子どもの姿や気づき、活動の過程について、写真や記録をもとにドキュメンテーションとして可視化し、職員間で共有した。そして継続的な実践のために、園庭の花壇に雑草コーナーを作ったり、また”西新宿ラボ”を作り、子どもたちの探究の場としたり、充実させた。子どもたちの興味や関心に応じて活動を柔軟に取り入れ、日常の遊びや生活の中で無理なく継続できるように工夫した。更に記録や振り返りを通して子どもたちの姿を職員間で共有し、環境構成を見直しながら実践を継続した。

その中で子どもたちは自ら『こうやってみよう』『こうしたらどうかな』と主体的な行動が多くみられた。子どもたちが興味あることを環境に取り入れて継続させることの大切さを改めて学んだ。このことを保護者へも伝えるために、園内に設定したラボ等を通して共有したり、園内掲示やお便りを通して発信し、子どもの学びや育ちを伝えたりした。



今後へのつながり

◎ “西新宿ラボ”の広がり

今年度は子どもたちの『やってみよう』気持ちを大切にしながら、年齢ごとの充実をしていく。

◎ 子どもたちの姿の変容

園庭や園外での自然への関心が深まり、虫や植物に興味を持って、西新宿ラボや保育室へ持ち込み育てることを楽しむ。

◎ 保護者への発信

子どもたちの気づきをわかりやすく伝えることで、親子で共感する機会として、保育への理解を深める

